



総合学科 家政系被服・保育系列

鶴岡のシルクを子どもたちに

東部保育園でカイコを
飼育する子どもたちと
シルクについて学びました

シルクガールズに目輝かせ

鶴岡中央高校生
東部保育園訪問 読み聞かせやファッションショー

鶴岡市日出二丁目の市立東部保育園(高橋奈津園長、園児123人)に16日、鶴岡中央高校のシルクガールズらが訪れ、絵本の読み聞かせやファッションショーなどを通じ、鶴岡でシルクが生産されていることをアピール、園児たちと交流した。

手作り絵本を読み聞かせた生徒



鶴岡市は全国で唯一、養蚕から製糸、製織、精練、染色、縫製まで絹製品を生産工程が残っている地域。市はその文化継承に向け、2010年度から「鶴岡シルクタウンプロジェクト」として市民によるカイコの飼育体験(本年度は50施設・7個人が参加)や、鶴岡中央高校生によるドレスの制作、ファッションショーなどを行っている。今回は、カイコ飼育体験を続けている東部保育園の園児たちの間で「繭はどうやって糸になる

の？」などシルクへの関心が高まったことを受け、市



を通じて鶴岡中央高校生が派遣された。

この日は、同校総合学科家政科学系列の被服系2人と保育系1人の生徒3人が引率教師と共に訪れ、3・5歳の園児約70人と交流。初めに講話で、繭から糸を紡ぎ、布を織っていく工程を説明。繭からできるものとして、花などの繭玉細工や布、絹タンパク入りのケークなどを紹介すると、園児たちは「えっ、食べられるの?」など驚きの声を上げた。

その後、保育系の生徒がカイコ飼育を題材にした手作り絵本「カイコのカイちゃん」を読み聞かせた後、被服系の2人が、先輩たちが制作したシルクのウェディングドレスでファッションショーを披露し、「わーっ」と歓声に包まれた。

年中組の梅田明莉ちゃん園児たちにファッションショーを披露した生徒たち

(4)はうつろした表情で「ドレスがすてきで、楽しかった。着てみたい」。被服系3年の大滝明依さん(18)は「7月ごろから準備し、伝えたいと思ったカイコのすごさを何とか伝えられた。私たち自身、シルクが食べられるなど、学ぶことが多かった」と話した。被服系の生徒たちは来年2月、荘銀タクト鶴岡で他校を交えて開かれる成果発表会「シルクのチカラ」で恒例の本格的なファッションショーを披露する予定で、そのため現在、ドレスなど50着ほどを制作中という。

荘内日報

